

等と決して同日の論にあらず。然りと雖も現世紀は進歩的社會なり、昨日の新説も、今日の腐言と化す、本誌は苟も小成に安ぜず、愈々進んで奇説珍論を精撰し、益々信譽を博し、吾人等の指南車となり羅針盤となり、其名に因む帝國惟一の大雜誌たらんことを切望に堪へざるなり。嗚呼、其の益友たる惟一雜誌よ、四季撰養、停刊又は廢刊の災禍なからしめよ。

『惟一』記者足下

筆硯歳と共に更まり益々御多様の段國家の爲め欣喜に堪へず候、小生儀爾來夢に東部の風光を觀て悄然北越の寒天地に起臥し朔風の凜烈なる硯海爲めに堅く鎖し今は環玦を折つて薪に代ふるの外無之有様偏に御憫察を乞ふ所に御坐候

陳者生義少しく感ずる所有之義きに「曲肱偕談」を物して足下及び讀者諸君に一方ならざる御迷惑相掛候已來唯だ世の中のそら恐ろしく持て生れし故言も高論もそんじよそこの先生方へ御預け申し唯だ白晳燈たる雪山に對して靜かに思ひ黙つて考へ居候矢前へ是は又如何なこそ長友天山兄は前きの「偕談」を怪しと見てか、彼の様の如き大々的筆鋒を揮ふて罪もなき吐虹子迄もアハヤ一打に眞面唐竹割になされんするの勢を以て先づ其前置永々と聽ては世の少年子弟を警告さるゝ筈の由イヤハヤ新年早々奉恐入候

『唯』の所謂「曲肱偕談」なるものに對しては多少の異言なき能はず、今直ちに之を兩子に質し、併せて世の少年子弟を戒る所あらんと欲す』と言はれたる萬雷の一時に落下するが如く生の驚きそも什麼ばかりと思ひ給ふ況んやその『兩子』たるもの其の自信を示したるものとして、決して其の責任を避くべきにあらず』と例の彈劾的筆鋒の鋭さ、見る眼くらめ

きて心は早鐘、突き上る疳癪の蟲を押へつ猶ほも讀下し候處豈料らむや弟知らむや次號のお樂しみさて唯々附け合はせの御小言ならむとは是れ實に兄か所謂多少の異言にて候や

天山兄は熱心に懇切に慈母の愛兒に誨ゆるが如く答を以て其口にくゝむるが如く生等二人が唱和せる處のもの則ち慷慨志士の詩歌を讀む事に就て注意せられ候我國國民は涙に腫く感情に強き人種なるを以て誤りて奇矯過激の舉指を爲さん恐るゝの故を以て、然して又是に就て何の必要あるかは存じ不申候得共義經と山路將軍とはごちちが強きかの如き質問を提起せられ而して自から之に答へて義經の方が強いと斷言され世人は何が故に獨眼龍將軍を賞め稱ふるや又何が故に争ふて川上の日清戦争劇を觀るやとの疑問を起されなご夫れば、容易の事にあらず、國家百年の風教を維成涵養する基礎標本を撰擇する上に於て深く考へざる可らず』と至極御尤もなる御異論にて流石に感々服々の至に候詩歌の風教上に影響を及ぼすことは仰せ迄も無く非常の勢力を有するものに有之候が天山兄の御近所にては如何様なる詩歌が専ら流行致し候哉明治維新后早く既に廿九年或る一方より之を見れば甚だしき短日月となさず、生等は今日の我邦少年子弟は假し客年最少しく敵愾の心を起し勇壯の風に化し來れりとするも太平の餘文化の至、大に士氣を損下文弱の弊は滔々として底止する所を知らず識者竊かに眉を蹙めしは兄にも定めし百も二百も御合點御同感の事と奉達察候吐虹子はいざ知らず生は實に此點に於て今は寧ろ兄かの給ふ如く誤りて奇矯過激の舉措に陥るが如き者を出ざるを恐れんよりは滔々たる天下腐儒の風と化し巾幗の流を酌まむを恐るゝの急を覺え候然りと雖も彼の小山録之助等の人物は随分恐入るものに候もの、一人に御坐候事能く、御察の上謫劣不文の「曲肱偕談の劈頭」今一度御讀直しの程矣々も願上候也

扱て兄が「最も辨せんさ欲す」る、悲觀的厭世的の舉措の是非に就ては如何なる御異言なるや豫測し難き事には候得共是亦御推量の如く其自信の一端を示したるものに候間充分に御批評被下度次第には又た健腕なる吐紅子の答辨あるべしと相考候へば小生は是にて御免を蒙り度何卒天山兄にも宜敷御傳聲可有之先は妄言悉く無罪に願上候也勿々

申一月吉辰

北越にて

田中 塵 外

小 説

少年 龜鑑 晃山子

其五

故矢部五洲

桑港は太平洋の海岸に於ける米國第一の埠頭にして我が横濱を去ると四千八百哩、恰も對岸最近の所と爲す。市街は新立國なる最新の創立に係り、近々三十年間に於て聳爾たる一インデアンの部落より今は、世界に有名なる大都會と爲り、人口五十餘万を有す、羅馬の古城は七丘の上に建てられたると聞きしが、桑港の市街は之れにも増して山又山岡又岡の上に踞り、人之れを呼んで百丘城と言ふとかや、黃金洲の黃金港、金に不足のなき儘に家屋を建設し、市街を連ねしとなるが故に、高きは高きに據り、低きは低きに從ひ、懸崖は

石を疊みて絶壁と爲し、溪谷は長脚を架して家屋を捧げ、以て其所に趣を添へたり。氣候は夏冬共に暑からず、又寒からず、雷鳴を聴き地震を感ずるとなく、地に霜を見ると稀に、人、雪を知るもの至て稀なり。空は絶へず晴れ渡りて草木は長へに緑に、一年唯十二月の末より一月に渡つて降雨の數々到るを見るのみ。勿論暴風の人の心を亂だすあるなし。實に世界の樂土なり。港内一般の有様を見るに、固と是れ新立の都府なるを以て古觀異物に乏しと雖ども市街の整頓せるとは他に向つて比類を求むる能はざる所に於てもマリアクト街の如きは、兩側四五層乃至七八層の石造、煉瓦造の家屋を排列し、道幅はニューヨークのブロードウエー街を二倍せるの廣さあり、人道車道を分ち、共に一面に堅牢華麗なる石を敷き詰めたり。此マリアクト街に在るパレス、ホテルは其廣大なると實に米國に於て第一位を占むるのみならず、恐くはロンドン、パリに於ても相較するに足るものはれなかるべし。其他カリフォルニア街に於けるクラツカー。ゴード。スタンフホルド建築の如き一見能く米國にも亦巨大の王侯あるを知る。

茲に、我が明治三十四年の頃よりして、生活の便利な